



# 近畿支部会報2016年7月号

毎日雨が降ります。九州はこの間地震があったのに、又、雨の被害があり、どんな言葉をおかけしたらいいのか、言葉が見つかりません。どうぞ、お元気でいられますように。

さて、近畿支部では日本モンゴル障がい児家族交流キャンプが目前に迫り、色んな方のご協力の元、準備を進めています。キャンプで着るお揃いのTシャツは、昨年のモンゴルの方の研修にご協力頂いたデザイナーのN様が製作を引き受けて下さり、素敵なTシャツが出来ました。キャンプ参加者激励会にはモンゴルの大学で障がい児教育の講義をされる等、モンゴルの障がい児教育に多くの力を注いでられる花園大学のH先生がモンゴルについて話して下さいました。

夏に三井寺で「平和を願う子供たちの作品展」が開かれますが、それには会員のWさんやモンゴルのHさんの努力で、モンゴルの子供たちの絵画が展示されることになりました。このように新しく知り合った多くの方の協力をいただいて、モンゴルとの絆を深めようとしています。

サーバスでの縁を大切に、より豊かに膨らませていければ嬉しいです。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

1、例会報告	モンゴルキャンプ参加者激励会	.....	京都市	K.S
2、トラベル報告	.....	思い出いっぱい	フランスの旅	八尾市 I.M
3、トラベラー受入れ報告	.....	受入れも又楽し	奈良市	F.H
	家族連れでこんにちは		和泉市	A.K
	9年ぶりのサーバスゲスト受け入れ		奈良市	K.M
	フランスからのお客様		交野市	K.K
	ホストをして思う		京都市	T.Y
4、会員交流	「北から南から」	.....	日本の教育に学ぶ	大津市 W.A 京都市 K.S H,T
5、お知らせとお願い	.....	.....	.....	支部長

## 1 例会報告

### モンゴルキャンプ参加者激励会

京都市 K.S

日時：2016年6月26日(日)

場所：大阪市立阿倍野市民学習センター

参加者：近畿サーバス会員 11名

日本モンゴル障がい児交流会会員 4名

大阪LD親の会「おたふく会」9名 合計 24名

昨春、日本サーバスの主催で行われた「モンゴル障がい児教育研修」終了後立ち上げられた「日本・モンゴル障がい児交流会」の今年度の事業として、8月にモンゴルで日本とモンゴルの障がい児家族交流キャンプが実施されます。例会はその激励会でした。サーバス会員のほかにお力添えくだ



さっている K 先生、H 先先生、キャンプに参加されるおたふく会や日本モンゴル障がい児交流会のメンバーも出席しました。キャンプ参加者にとっては、初顔合わせの場でもありました。会場の予約等準備はおたふく会ですすめてくださいました。

天王寺駅から会場の大阪市立阿倍野市民学習センターまで迷ったので、皆さんうまくたどり着けるのかいささかきがかかりでしたが、全員無事集合できました。

まず K 先生から「昨年の研修でモンゴルから日本へ虹の架け橋がかかりました。今夏はその橋を日本からモンゴルへ渡って、いろんな体験を楽しみ、笑顔を土産に帰ってきてください。」との激励の言葉がありました。日本サーバス会長やモンゴル側のキャンプ代表、H さんからは心のこもったメッセージが届いていました。

次いでサーバス近畿支部長のキャンプの概要説明です。多くの協力をいただいて準備がすすめられ、この計画が実現しようとしていること、モンゴルと日本では文化の違いがあり、現地では日本式とは違ってとまどうこともあると思うけれど、そういうことも交流のうちととらえて参加してほしいと話されました。続いて具体的な説明がありました。日程のこと、モンゴルの障がい児親子はキャンプ地のみでの参加であること、観光するところ、自由参加のプログラムもありその費用は個人負担になることなどをお聞きして、キャンプのイメージがうかんできました。モンゴルの住居ゲルのデザインされた T シャツが披露されました。同じデザインの旗もあり、出発時はこの旗のもと、お揃いの T シャツを着て集合することになります。よい目印になる T シャツの出番は他にもたくさんあることでしょう。この一団がいろんな楽しい経験をして、事故なく帰国することを祈ります。

続いて H 先生がモンゴルの話をしてくださいました。日頃花園大学で講義をなさっている先生の話が学生時代に戻ったような気分でお聞きしました。多くの資料がパワーポイントで示され、授業がはじまったようでした。まずモンゴルの地理です。どこにある国でしょう、民族は、宗教は、人口は、気候は、通貨は・・・いろいろ勉強しました。乾燥しているので保湿クリームが必要、**お風呂に入れなくても不愉快感はないなどの話があり**、観光するスフハートル広場のスフハートル像、チンギスハーン像など多くの映像をみせてくださいました。参加者一同、モンゴルについて少しは具体的なイメージを膨らませることが出来ました。

閉会前にラッキーナンバーの発表があり、2 名の当選者がゲルの形をした賞品を手に入れました。H さんからもモンゴルのチョコレートのプレゼントがあり、モンゴルを心に満たした例会でした。

最後にキャンプでも日本の参加者全員で合唱することになっている「世界で 1 つだけの花」を歌って閉幕となりました。

## 2、トラベル報告

### 思い出いっぱい フランスの旅

八尾市 I.M

4 月の末から 5 月の連休にかけて 4 月 24 日～5 月 7 日、娘と 2 人でフランスに出かけました。パリ市内でホストを探しましたが、丁度、パリ地域が春休み期間だったようで旅行に出かける方が多く、中々見つける事が出来ませんでした。しかし、苦労した分、出会えたホストの皆さんは最高でした。

到着が夕刻の為ホテルで 2 泊、パリ市内、パリ近郊で 7 泊、ロワール城巡りの拠点 TOURS、近くのサン ピエール デコールで 3 泊しました。

最初の宿泊先 M は、わざわざ、近くだからと、ホテルまで迎えに来て下さいました。アパートは交

通の便が良い所で、私達は毎日メトロに乗って市内見物をしました。

次にお世話になったFは、サーバス国際会議（NZ）で親しくなった人です。TGVの予約は、ネットの苦手な私に代わり、代金先払いで予約を下さいました。他のホストの人達との連絡の仲立ちもして頂きました。料理が趣味とのことで、毎食、手の込んだ美味しい家庭料理を頂きました。夜10時になると、エッフル塔が点灯してキラキラ輝きます。それをお家の窓から見る事が出来ました。とても綺麗でした。

サン ピエール デコールのMAのお家は駅から車で20分位の所で、周りは全て畑です。家の近くの岩の洞穴のワインセラーに何百本ものワインを貯蔵されていて、それは美味しいワインを頂きました。

それからMAの35年来の友人で、サーバスメンバーでもあるPさんから夕食の招待を受けました。お家へ伺ってビックリ！！ご夫婦は、Hさん宅に滞在され、又Hさんもこちらを訪問されていたことがわかりました。なんという奇遇でしょうか！Hさんのおもてなしにとっても感謝されていました。最後の夜、2家族と私達で、楽しい夕べの一刻を過ごしました。始まりはまだまだ明るい8時過ぎから12時ころまで続きました。

翌朝、MAとPさんに、駅まで送ってもらい、TGVでパリのモンパルナス駅まで直行。パリ郊外のHは、親切にも、モンパルナス駅まで迎えに来てくれました。旅も後半で少し疲れてもいましたので、本当に助かりました。彼女は一人暮らしで、毎日色々することが有り、活動的に過ごされています。それなのに、私達の為に時間を割いてくれました。私達は、つたない英語で、彼女はフランス語を英語に置き換えて話が弾みました。彼女は料理の手際が良く、あっという間に食事の用意が出来て、美味しい食事を頂きました。もちろんワイン飲み放題！！

旅行中、私達は、ホストの皆さんに本当に多くの温かい気持ちと親切を受けました。お礼を言うと、必ず皆さんから帰ってくる言葉は一つ、《サーバスだから 当然》

私達はツアー旅行では、到底体験できない思い出いっぱいの旅行をしました。日本に帰ってからも、娘とフランスの思い出話をしては、楽しかった日々を懐かしんでいます。

### 3、トラベラー受入れ報告

#### 受入れも又楽し

奈良市 F.H

4月12日から14日まで、スイス人の女性Eさんとご友人Tさんが、奈良県生駒市の実家に宿泊されました。69歳のこの二人連れは穏やかな人柄で、英語もゆっくり話して下さり、世代の近い私の両親とすぐ打ち解けられました。火曜の夜に到着し、水曜日は奈良公園を散策されました。まだ桜が咲いている時期だったので、枝垂れ桜で知られる氷室神社、そして近鉄奈良駅の観光案内所の勧めで佐保川沿いの桜並木をゆっくり散策されたそう



です。日本の花見パーティの習慣を説明するととても興味を示していました。実家の朝ごはんに出たゆで卵を奈良公園に持って行き、桜の木の下で食べたそうです。水曜日の朝は父も私も仕事が休みだったので、東大寺まで同行しました。奈良公園では退職されたような年齢の方がボランティア・ガイドとして活躍しておられ、その時期に咲いている季節の花や見どころなど気さくに教えてくれ、トラベラーの二人も日本人との交流をとっても楽しんでいました。

奈良観光に途中まで同行したのは、お二人がクレジットカードのキャッシングの仕方が分からないと仰ったこともあります。観光案内所にも尋ねましたが、結局彼女たちが使用しているヨーロッパのマスターカードは近鉄奈良駅周辺のATMでキャッシングすることができず、意外なことに、佐保川沿いのコンビニ（近鉄新大宮駅）でやっとお金を引き出すことができました。スイスのドイツ語圏からいらしていたので、そのATMにドイツ語で案内する機能があったのには感激していました。

実家には二泊宿泊して頂き、一泊目はすき焼きを、二泊目はお好み焼きを作り食べました。調理が簡単なお好み焼きの方が嬉しそうに食べていた印象です。食事の時間は母親を含め、家族とスイスの方々が親睦を含められる最も楽しい時間でした。両親もスイスのお二人も子供や孫の写真を見せ合い、互いの日常生活や家族イベントの楽しい思い出などを語り合っていました。父は英語の小説を読むのが趣味で、母は毎週英会話のレッスンに行っているの、時々こうして海外の方と英語で会話ができるのは、世界が広がり楽しい経験だと言っています。私も最近海外旅行をできる機会が少ない分、こうして日本に関心がある方に来て頂いて外国の色々なお話をできるのは、良い刺激になっています。仕事や実家の都合であまり頻繁にホストをできませんが、外国の方と国内でこのような交流の機会があるのは貴重なことだと思っています。

### 家族連れでこんにちは

和泉市 A.K

5/1-2 L 🌹 (f) Ga 🍌 (m) X MALAYSIA

マレーシアからやんちゃな息子を連れた親子がやってきました。小さいさくらんぼといちごを庭で採りました。奈良散策、大阪散策と時間を有意義に使っていました。



5/7-9 T (f) G (m) A K

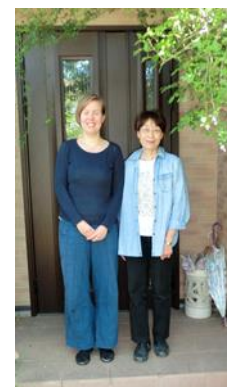
2年前にホストしました。イギリスからだったのですが、今は、サーバスのメンバーではありません。子供たちの日本語教育の為に、松山に住んでいます。Gを関西空港に送っていくのに寄ってくれました。二人の子供たちは、小学生1・4年生で日本の生活を楽しんでいるそうです。8月に私達は、シェアハウスにお邪魔する予定です。



### 9年ぶりのサーバスゲスト受け入れ

奈良市 K.M

5月16日から18日までスウェーデン人の若い女性、Mさんを受け入れました。いろんな事情で長らく休会していましたが、昨年復会してから初めての受け入れでした。16日夕方、JR平城山駅に彼女を迎えに行きました。長い間英語を話していなかったのが不安がありましたが、Mさんはここにこした明るい女性で話やすく、しばしば言いたい単語がでてこない私の英語を忍耐強く聞いてくれて、楽しくお話ができました。食事をしながら、そして食後、その日わたしが畑で収穫してきたエンドウやソラマメの皮むきを手伝ってもらいながら、彼女が日本に来る直前に行ったニュージーランドの話や日本での体験、温泉や旅館、高野山のこと、彼女の仕事やスウェーデンのことなどいろいろな話を聞きました。私は家から離れた場所で野菜や果樹や花を育てていて毎日忙しいので、翌日の奈良の観光はボランティアのガイドさんに案内



をお願いしました。以前は学生ガイドを頼むことが多かったのですが、今回学生ガイドは全員ふさがっているとのことで、YMC Aの善意ガイドの方をお願いしました。朝彼女を奈良まで送って行って私は畑に行き、ガーデニングが好きだという M さんを3時に奈良駅でピックアップし、畑に案内しました。野菜畑や花畑やガーデンを見て回り、畑の別宅で紅茶を飲みクッキーを食べながら、おしゃべりをしました。スウェーデンではF I K Aとって、人々は午前と午後、集まってコーヒーや紅茶とお菓子でおしゃべりをするのだそうで、日本でF I K Aができるとは思わなかったと喜んでいました。

翌朝、東京に行く彼女を平城山駅で見送ると、2泊のホストがあつという間に終わりました。スウェーデンには行ったことがなく、あまり知識もなかったのですが、彼女を通じて少し身近になりました。もう海外にはなかなか行けそうにないのですが、サーバスのゲストを通じて行ったことのない国が身近になるなんて改めていいなと思いました。

### フランスからのお客様

### 交野市 K.K

受入れ 5月19日～22日

日本に来て数ヶ月、北海道のゲストハウスなどで働きながら過ごしたという C 君は、流暢な日本語を話す22歳の好青年でした。「次は京都のゲストハウスで1か月働きます。それまで大阪の観光をしたいです。」ということで、我が家に3泊しました。お好み焼きが好きというので、焼き方を教えながらホットプレートで一緒に作ると、とても上手にひっくり返して大喜びしていました。私が働く小学校で、1



日小学生体験もしました。ちょうど運動会前だったのですが、フランスにはそのような学校行事がないようで、1年生の子ども達がダンスをしたり、玉入れをする様子をととても珍しそうに見ていました。玉入れのかごを持つ役をしてもらったのですが、子ども達の投げる玉がたくさん体に当たり、目を丸くして驚いていました。給食を一緒に食べたり、そうじをしたり、ひらがなの学習をしたりする中で、1年生の子ども達とすっかりうちとけ、子ども達に大人気でしたが、あまりにもみんなが取り囲むので「疲れました」と本音をもらしていました。子ども達が毎日自分たちでそうじをすることや、6年生が1年生の給食やそうじ等のお手伝いをする姿に1番感心したと教えてくれました。

### ホストをして思う

### 京都市 T.Y

サーバスに入会して丸二年、老親を抱えているためなかなか stay を受けられませんが、day host として何組かの人々を受け入れました。私は観光案内の前か後に、ゲストを我が家に招いてランチか supper かお茶をともにしています。おもてなしと言うほどではないですが、老親を交えて、時には隣人を招いて、楽しい時間を過ごしました。特別なことは何もありませんが、生活の場で食事しながら様々なことを話したり、我が家の近所を散歩したりということもゲストは楽しんでいると感じています。

特に印象に残っていることは；私の父は時計職人だったのですが、我が家に招いたデンマーク人の女性の父親も時計職人だったそうで、「偶然！？いやシンクロシティ?!」と互いにとても驚きました。私の父を交えて時計についての話に花が咲きました。彼女の父は数年前に亡くなったそうで、なんだか懐かしく不思議な感じがすると言っていました。

また、基本的に一期一会と思ってホストをしています。一番初めに day host をしたイスラエル人の女性が今年再来日した時、私たちは旧友のように再会を喜び合いました。

今年もなかなか時間がとれない状態ですが、細々とでも活動に参加できればと思っています。

#### 4、会員交流—北から南から—

### 日本の教育に学ぶ

京都市 H.T

モンゴルは25年前にロシアから独立して社会主義体制の国から自由主義の国に生まれ変わりました。モンゴルの人たちの手で国づくりが進められていますが、色んな困難に直面されています。その中で日本に対しては、非常に友好的で政治的にも日常生活においてもとても親しみのある国と位置付けていられます。モンゴルでは日本の生活や文化やシステムについて非常に親しみを感じていられ、教育については日本から学ぼうとされています。今回、日本モンゴル文化経済交流会会長のS様達のお世話によって、文部省のお仕事をされているHさんと学校の先生お二人が日本の教育を学びに来られました。昨年度、モンゴルの人を受け入れたS.W.Hの3家族が、ホームステイやデイホストとして、お世話しました。

大津市 W.A

6月14日深夜HさんとOさん（新モンゴル学校の教頭先生）とEさん（同校小学校一年生の担任）の3名がSさん宅に投宿。

15日は琵琶湖外輪船ミシガンにて遊覧。去年SさんがC君家族のストレス解消を願って乗せたミシガンを追体験してもらった。

16日はWがデイホスト。午前中は三井寺へ。8月6日から14日まで三井寺金堂にて平和を願う子どもたちの作品展に、第11回目の今年は、海外からの出品としてモンゴルからの絵画をお願いした。Hさんが持参してくださる。そこでその会場をご案内した。私は軽い下見のつもりだったが、金堂に並ぶ沢山の仏像に深い関心を持たれ、一体一体丁寧に説明させて頂いた。全ての仏像の前にお賽銭を備えて深々と礼拝する姿に感動しました。モンゴルの不幸な宗教事情も伺う。仏教僧侶の大量虐殺もあった由。今はインドで仏教を学んだ先生が若い僧侶に教えているところだそうです。この日は生憎大雨で気の毒に思いましたが「モンゴルでは雨が少ないので雨は嬉しいです」とのこと！ 観音堂から雨に煙る琵琶湖を眺めながら平和堂で選んでもらったお寿司でランチ。



午後は京都岡崎の社会福祉法人「あおい苑」を訪問。五月に岡崎公園のロームシアターであおい苑の障がいのある方々のハンドベルのコンサートをWが見て感動。出演した歌手のNさんが友人であり、その叔母さんが運営する施設あおい苑を見学。92歳で現役の創設者、Hmさんが障がい者教育を目指す遠来の客を涙ぐんで歓待された。学校卒業後行き場のない教え子さんをみて、この子らの居場所をと軽度の仕事をする通所作業所を60歳で始められた。その製品のシフォンケーキに舌鼓を打つ。自宅を改装、立派な庭も潰して作業場所に。3人からの質問に答えるHmさんは、自分のことは一切語らず。ただこの子達（年齢は様々）の幸いのためにのみ生きて来られた歩みに触れて一同感慨一入。

お礼にとOさんがモンゴルの歌を歌う。もともと笑顔の方だが、歌っている表情は素晴らしい笑顔。言葉の意味は解らないが、その輝くような笑顔と澄んだ高い美声にうっとりした。初めてながら心が通じ合った喜びにお互い別れがたく、キスとハグを繰り返した。Sさん宅では夕食を準備して待ちうけていらした。

17日は同じく去年C君家族を案内した琵琶湖博物館へSさんが連れて行かれた。

Sさんご夫妻が3年連続でHさんたちを濃やかにホストされた。

追記：後日、Hさんよりお預かりしたモンゴルの子供たちの絵画を、絵画展の主宰者に渡しに行きました。とても喜んでくださり、特に障がいの方の絵画が美しく、二人で見とれました。皆さんへの御礼を言付かりました。

## 京都市 K.S

モンゴルからのお客様3人は、6月18日～21日、H宅に滞在されました。

18日、京都駅で待ち合わせをして水族館にいきました。3人ともはじめての水族館ということで興味津々。ちょうどイルカショーが始まるということで、まずスタジアムに陣取りました。その後、前日のホストSさんが持たせてくださったパンで昼食をいただき、水槽で泳ぐ魚、サンショウウオ、クラゲほかをみてまわりました。ペンギンのコーナーではお食事タイムで、飼育員に餌をねだる姿、うまく餌を受け取れないペンギンにも餌がいきわたるよという飼育員の気遣いを見ることができました。



次に2人の先生が20日大阪の長原小学校を見学されるので、その受け入れ校の先生と会いました。彼女はモンゴル語が話せるので打ち合わせはスムーズにすすんだようです。その後5人で連れ立ってイオンモールに行きショッピングタイムとなりました。H宅に帰り、夕食はキャンプでの出し物「日本の料理を作って食べよう！」を担当するキャンプ参加者、Kさんも来られて試食を含んだメニューとなりました。

19日、まず近くの東福寺へ。この時はそれほど強くない雨でしたが、JRの駅への移動中バケツをひっくり返したような雨になり、嵐山に行こうと思っていましたが、二条城に変更しました。Hさんは広島城を訪問済みでしたが、全く違う雰囲気のお城のたたずまいを楽しまれました。城内見学の後は庭園へ。雨の勢いも和らいでいてラッキーでした。神泉苑にも寄って京都駅に戻りました。

ここからHさんは別行動となり、20日夕方の再会を約束して別れました。

この日の最後を飾ったのは伏見稲荷神社でした。この2年ですっかり外国人の人気の的となり、雨にもかかわらず多くの観光客が訪れていました。夕食中にHさんから連絡が入って再会は日延べとなり、2人はもう一日H宅に宿泊されることになりました。

20日大阪の長原小学校では受け入れ態勢を整えて迎えてくださいました。栄養指導やプール等モンゴルでは設定されていない授業見学や、全学年の児童たちと触れ合えるように計画されていて、給食時は

6年生の教室にお邪魔しました。3人はバラバラに座り、児童に交じって食べました。私もモンゴル人だと思われていたようで、日本語を話すとびっくりされました。ごちそうさまの後は質問タイム、モンゴルの文化についての質問には、歌を披露して旋律の違いを感じてもらわれました。教科書には「スーホーの白い馬」が載っており、モンゴルの位置もゲルという家に住んで移動しながら放牧をしている人たちがいることも、子供たちはよく知っていました。このほかにも休み時間に近づいてきて話しかけてくる児童もいてよく交流できました。



最後に職員室で、校長先生は用事があって学校におられなかったのですが、教頭先生にご挨拶と御礼を申

し上げて辞しました。帰国後どんなレポートを作成されるのでしょうか。

21日今夏の再会を約束してお別れしました。

## 5、お知らせとお願い

支部長

\* 8月6～14日大津市の三井寺で「平和を願う子供たちの作品展」が開かれます。絵画展のきっかけは沖村舞葉さんが、シベリアから脱走して奇跡的に日本にたどり着いた平野喜三さん（1920～2011）に出会い、平和の尊さを実感された事です。彼女は平野さんの体験を冊子にしたり紙芝居にして、地道な平和運動をされています。この作品展には日本モンゴル障がい児交流会が仲立ちをしたモンゴルの子供たちの作品が飾られています。暑い日々ですが、どうぞ会期中に会場へ足を運んで下さい。

\* 次の例会は既にご案内していますように、8月14日（日）三井寺で行います。お盆と重なりお出ましにくい日だと思いますが、絵画展の都合上、この日に設定させて頂きました。ご都合をお付け下さり、ご参加下さいますよう、宜しくお願いします。

\* 東日本震災被災者支援保養の取り組みは、今年新たに受け入れて下さるホストがいらっしゃいませんでしたので、新たに募集する事は止めて、今まで来て頂いていた被災者の方に連絡をし、W 会員宅で8月2～8日受け入れることになりました。

\* 2016 年度サーバス年会費（一般3000円 学生2000円 休会者B1500円）をまだお払い頂いていない方は、次の口座へ宜しくお願いします。

口座番号00990-6-33645 加入者名 日本サーバス近畿支部



以上